



## 概要

Volatility (変動性)、Uncertainty (不確実性)、Complexity (複雑性)、Ambiguity (曖昧性) の頭文字をとった VUCA といわれる将来の予測が困難な時代に生きる私たち。本講演では、世界を取り巻く状況、そして未来予測を考察し、先行き不透明な VUCA の時代をいかに生きるか、加えてこの時代の風を 11 の視点でよんでみる。

## はじめに

世界を取り巻く環境は混沌としている。地球温暖化により生態系は脅かされ、ウクライナへのロシア侵攻はいまだ終結の兆しは見えない。また、食糧危機や鉱物資源戦争、新型コロナウイルス感染症、パレスチナ紛争など、世界に緊張感が増している。2045年には人工知能(AI)が人間の知能を超えるシンギュラリティが起こるともいわれている。私たちが生きる現代は、このように未来予測が困難で危機が複雑に絡み合う「ポリクライシス(複合危機)」の時代にある。

人口ではインドが中国を抜き世界一の国となり、インドネシアやアフリカ諸国も増加傾向にある。一方、日本や韓国、ヨーロッパ諸国は人口減少が加速している。日本の首都・東京の合計特殊出生率は0.99と1.00を切ってしまった。こうした人口問題や円安などの影響から、日本の世界GDPランキングは3位から4位に転落し、2050年にはイギリスやインドネシアに抜かれて6位まで落ちる可能性も指摘されている。

フランスの思想家・経済学者のジャック・アタリは著書の中で、2030年は無秩序な世界になるといい、市場と民主主義の関係が不安定化し、公益が消失すると予測する。利己主義的な思想が蔓延し、憤懣が世界を覆うというのだ。これを解決するのが「利他主義」である。利他心いわゆる自律利他の精神こそが暗澹たる未来を救うと提唱している。

日本が直面している危機に目をむけると、依然として低い食糧自給率や、中国や北朝鮮、ロシアといった権威主義の隣国との関係、少子高齢化や過疎化の進展など多くの問題をはらんでいる。日本が戦後高度経済成長を遂げた要因のひとつに陸海軍を支えた高い軍事技術力の影響があったように、宇宙への進出や深海などの資源開発などに傾注することで新しい技術を会得することが、未来を切り拓くための種(シーズ)となるかもしれない。

不確実性が高まる VUCA 時代をいかに生きるべきかについて述べてみる。

## 1. この時代をいかに生きるか

### ①ビジネスで求められる4つの能力

- i) 情報収集力
- ii) 情報分析力
- iii) 判断力
- iv) 意思決定を行う力

スピードが求められるビジネスのシーンでは、情報を収集・分析・判断したものについて、それらを活かしかつ迅速な意思決定を行えるかどうかのカギ。

### ②変わるビジネスの思考法

PDCA から OODA へ

Plan（計画）、Do（実行）、Check（検証）、Action（改善）という従来の PDCA サイクルではなく、Observe（情報収集）・Orient（方向性判断）・Decide（施策の決定）・Act（行動する）という米軍のモデルである OODA ループという思考法を応用することが今後主流になる可能性がある。ただ、最終的には意思決定力が肝になる。

### ③これからの人生・仕事で求められる4つの心構え

- i) 好奇心→年齢は関係ない
- ii) 学び直し→思わぬ発見がある
- iii) 聴く力→ビジネスにおいては特に話す力以上に求められる能力
- iv) 利他心→自律利他の精神

### ④これからの職場で求められる4つの力

- i) 心理的安全性→各々が意見を臆することなく発言できる風通しの良い職場づくり
- ii) パーパス→企業が存在する目的・意味
- iii) チームワーク→個々の能力と組織としての底力
- iv) 暗黙知の形式化→個人の知見やノウハウ、スキルを誰もが使用可能とする

### ⑤キャリアを充実させる3つの要素

アメリカの組織心理学者エドガー・シャインによる理論

- i) Will→何をしたいのか。動機、目標、望む・望まないこと
- ii) Can→何ができるか。技能、得意分野、強み
- iii) Must→何が求められているか。役割、貢献

求められる業務に取り組むことで仕事の範囲や知見が広がり、自分のやりたいことにつながってゆく。キャリアを充実させる源となる。